

CN

▶ 気候変動によるリスク評価

気候変動 リスク項目	気候変動リスクによる影響 ● リスク ○ 機会	影響度 評価	対応策
炭素税の導入・ 引き上げ	● エネルギー調達コスト増加 ○ CCUSの普及	大	● コージェネレーション・太陽光発電導入によるGHG排出量削減 ○ 当社イオン液体によるCCUシステムの確立
CO ₂ 排出量削減	● GHG排出規制強化 ○ GHG排出量削減貢献製品の市場拡大	大	● エネルギーマネジメントによるSAP製造時のGHG排出量削減 ○ 風力発電翼用炭素繊維集束剤の販売拡大
低炭素製品への 置換	● 使用段階におけるCO ₂ 排出制限 ○ バイオマス原料使用製品の市場拡大	中	○ バイオマス原料使用活性剤の販売拡大
リサイクル規制	● リサイクル原料の増加によるコスト増加 ○ リサイクル対応製品の需要増加	中	○ リサイクルPETを利用した画像薬剤の開発 ○ ウレタンのケミカルリサイクル技術の開発 ○ 樹脂分散剤をリサイクル材料／有機物フィラー分散に展開
消費者行動の変化	● ガソリン車、ハイブリッド車の販売減少 ○ 電気自動車の販売増加 ○ モビリティの低燃費化に伴う電池の軽 量化促進	大	● ガソリン車、ハイブリッド車の省燃費化に寄与する潤滑油用添加 剤の販売増加 ○ 自動車の電装化に伴う電解液の販売増加 ○ 半導体需要増に伴うICトレイ用永久帯電防止剤の需要増加 ○ 軽量化に貢献する有機正極二次電池用有機正極の開発

して想定しています。さらに循環型経済への移行加速や脱炭素社会に向けた革新技術の登場もリスクの検討の対象としています。対応策として、当社グループのCO₂排出量の多くを占める名古屋工場、鹿島工場およびSDPグループでCCU (Carbon dioxide Capture and Utilization : CO₂回収・利用) の活用や水素などへのエネルギー転換の検討を進めるとともに、プロセス改善などを行い、事業所からのCO₂排出量を削減することとしています。

機会に対しては、事業ポートフォリオの見直しを含め、サステナブル経営を力強く推進していくことでCO₂排出量削減に貢献します。

気候変動に関する主要なリスクと機会に対する 当社グループの対応策

主要な「リスク」「機会」に対する当社グループの対応策および影響度評価を整理しました。影響度評価については影響する金額を推定し、その大きさによって大、中、小と分類しています。

指標と目標

当社グループは、Scope1とScope2において2050年CO₂排出量ネットゼロとする長期目標を掲げ、2030年にCO₂排出量50%削減（2013年度比）を目指し、ロードマップを作成しました。再生可能エネルギーの利用やエネ

ルギーマネジメントシステムの導入によるエネルギー利用の効率化、製造プロセスの見直し、製品ポートフォリオ変更などの施策に加えて、CCUの導入により大幅なCO₂排出削減を目指します。

また、CO₂排出量削減に貢献する製品の拡販や開発を推進する指標を設定し、サプライチェーンを通じたCO₂排出量削減に取り組んでいきます。

▶ CO₂排出量削減の目標

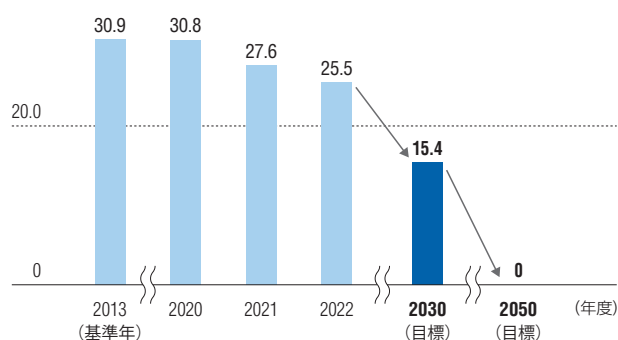
■ 排出量 (Scope1+2)

Scope1: 製造プロセスにおける燃料使用など、工場からの直接排出

Scope2: 工場外からの電力・熱の購入などによる間接的な排出

(万t)

40.0



▶ カーボンニュートラルに向けたロードマップ

<https://www.sanyo-chemical.co.jp/sustainability/environment/tcfd/>